

3D 関西だより

No. 6 2011.4.24

3月11日(金)東北および東関東地方でマグニチュード9.0の大地震が起こり、高さ20mを越す大津波が沿岸を襲いました。災害の規模は古今未曾有で、いまだに瓦礫の後片付けも終わらない状況です。また、津波によって東京電力福島第1原子力発電所が破壊され、大量の放射性物質が周辺地域を汚染しています。いろいろな困難が前途に立ちふさがっていますが、被災地の1日も早い復旧復興を願ってやみません。

春の例会を開きました

4月24日(日)例会を開きました。出席者は会員15名、東京ステレオクラブから3名(関谷・高詰・池田)でした。いろいろ新しい情報(後記)を発表していただいた後、作品上映に入りました。作品はすべてデジタルで、スライド作品は皆無でした。いつでもスライド上映機器は用意してありますので、スライド作品もどんどん発表していただきたいと思っております。

デジタル作品の上映はエイサーのプロジェクターと3DメガネおよびNVIDIAの3Dメガネを併用して行いました。エイサーの3Dメガネは、スクリーンから離れたところで見ると、信号が弱くなるせいか、ときどき立体視ができなくなる欠点がありますが、NVIDIAのメガネは安定していました。

ISU CODE 7

3月末に提出したISU CODE 7の各国のクラブの作品を見せていただきました。なかなかの力作ぞろい、さすがという感じでした。わが3D関西も10点提出しました。担当の井上さんの話では、安全基準が厳しくて、相当不満が出たようですが、結局出された作品は、安全基準に違反したのも、そのまま発表するという事に落ち着いたようです。

とはいっても、安全基準を無視してよいわけではなく、やはり国際的に広く活動するためには、ISUの安全基準は守ったほうがよいわけで、今後撮影するときには、安全基準を強く意識していただきたいと思っております。次の応募は9月末ですので、今から予定しておいてください。

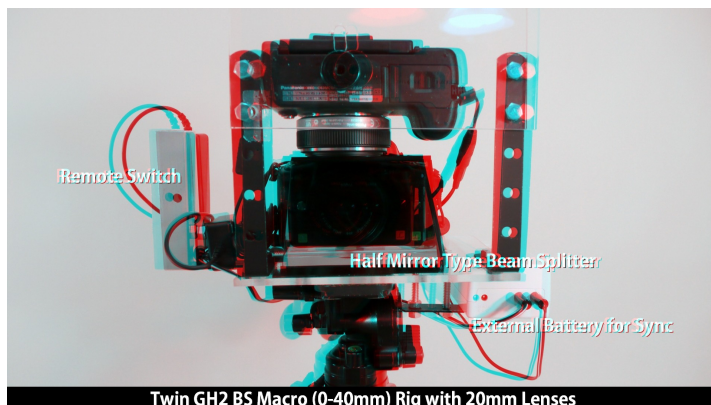
一眼レフ用接写装置

一眼レフ2台を使って3D撮影をするときの一番の悩みは、ステレオベースを短くすることができない点です。とりわけ接写をしたいときに、このことで悩みます。この問題を解決する装置(下の写真)を井上さんが考案されました。

これはハーフミラーの透過光と反射光を2台のカメラにべつべつに入れるようにしたもので、ステレオベースは0から40mmまで変化させることができるようになっています。

写真の奥にあるカメラの前に、ハーフミラーが斜めに取

り付けられています。奥のカメラには、ハーフミラーを透過した光が入ります。ハーフミラーで反射した光は上のカメラに入ります。



動画編集講座終わる

神戸の大林さん宅で、井上さんと川越さんが講師となって数回にわたって開かれた動画編集講座が終わりました。これには、5名の会員が参加され、3Dの動画編集方法を修得されました。同じ方法で、3Dの静止画をズームしたり、パンしたりするフォトムービーを作ることもできます。次回からこのような作品が増えることを期待します。

大林さんの次の企画は、スタビライザーの製作講座で、近日中に開く予定だそうです。スタビライザーは3Dの動画を移動しながら撮るときに絶対に必要な装置で、これがあるのとないのとでは、作品の質に大きな差が出るので、是非とも備えておきたいものです。

大阪の都市美を3Dで表現する

総合デザイナー協会(DAS)は、2006年から毎年3月に大阪の都市美をテーマにした展示を大阪市庁舎1階エントランスロビーで開いていますが、3D関西がこれに参加してはどうかという提案が吉田博文さんからされました。

お話は昨年の11月の「飛び出しMasse!2010」のころからあったのですが、準備不足で、今年の3月には間に合いませんでした。来年3月に向けて、一度大阪の撮影スポットにくわしい会員の方に集まっていただいて、作戦会議を開こうと考えています。

グローバル3D開業

八尾佳則会員が3Dを用いた企画・製品等を扱う事業を始めました。事務所は奈良市高畑町102番地 奈良国際研修館3階です。

昨年3D元年といわれ、華々しいスタートを切った日本の3D界ですが、まだそれほど一般に普及している状況ではないので、将来性はあるものの、当面はどんな仕事ができるのか、八尾さん自身も模索状態です。こんなことをやってはどうかというような提案がありましたら、ぜひ八尾さんにお知らせください。また、八尾さんから写真提供などの依頼がありましたら、ご協力をお願いいたします。